

令和6年度 社会福祉法人みねやま福社会 事業計画

1 理念

- ・創立の理念を尊重し、より質の高い福祉サービスの提供
- ・地域の人々の、こころ豊かで安心・安全な暮らしへの貢献
- ・誇りと夢を持ち、福祉の仕事にまい進できるよう職員の幸福追求

2 NEXT VISION 2030

「あらゆる垣根を越境し、新しい“フクシ”を創造する。」

5つのアップデート

- (1) 生産性のアップデート
個性の発揮とテクノロジーの活用によって常識の枠を越えよう
- (2) 品質のアップデート
専門性の集約と地域展開によって制度の枠を越えよう
- (3) 人材のアップデート
主体的な学びと自律的な判断によって思考の枠を越えよう
- (4) 組織のアップデート
積極的な挑戦と時代を切り拓く革新によって管理の枠を越えよう
- (5) 対象のアップデート
多様性の尊重とより良い社会への憧れによって自分の枠を越えよう

3 品質方針

- ・私達は、サービス提供の全ての場面で「管理より生活を」大切にします。
- ・常に正しい情報の把握と提供に努め、自分が受けたサービス提供・改善に努めます。

4 基本方針

- (1) あらゆる法の理念に基づき、それを遵守します。
- (2) 質の高い福祉サービスを提供し、利用者や家族の満足を得るサービスの実践に努めます。
- (3) 迅速・正直・丁寧をもって、利用者・家族との対話に努め、地域社会への貢献を図ります。
- (4) 「ノーマリゼーション」の実現に向けて取り組みます。
- (5) 職員の育成に努め、全ての職員にとって、誇りと満足のある職場となるべく努めます。
以上の基本方針に基づき、事業運営方針を定めます。

5 事業運営方針

- (1) 自立支援を中心にすえた利用者本位の福祉サービス提供に努めます。
- (2) 「いつでも、どこでも、だれでも」で表される普遍主義に則り、年齢の違い、性別、障害の有無に係わらず、福祉サービスが必要な人へ、必要な福祉サービスを提供できるように努めます。
- (3) 地域の社会資源としての機能を十分に発揮できるように努めます。
- (4) 質の高い福祉サービスの提供ができるよう、また、職員一人一人が誇りと満足が得られるよう人材育成、職員研修に努めます。

6 事業経営方針

- (1) 経営戦略の確立
- (2) 経営体力の増強
- (3) 経営状況の可視化

7 年度目標

SDGs（持続可能な開発目標）を念頭に置き、目標を次の通り掲げます。

(1) より質の高い福祉サービスの提供

- ア 情報の収集とサービス内容の振り返りを行い、科学的根拠に基づくサービスを実施します。
- イ 個人を大切にし、全ての人の尊厳と権利を尊重します。
- ウ 利用者を知り、ニーズを把握することで適切なサービスを行います。
- エ 課題への取り組みを言語化し、共有するために実践研究に取り組みます。

※SDGs 目標No.3（健康・福祉）とNo.11（まちづくり）に対応。

(2) 地域の人々の暮らしへの貢献

- ア 地域や他職種と連携して、地域の困りごと解消に取り組みます。
- イ 多様性を理解し、様々な人がごちゃまぜで共生できる地域をつくります。

※SDGs 目標No.11（まちづくり）とNo.17（パートナーシップ）に対応

(3) 職員の幸福追求

- ア 職員調査を活用し、職員の満足度向上のための環境整備に取り組みます。
- イ 事業所の垣根を越えた連携と職員同士の関係性を良好にするコミュニケーションを促進するために、デジタルグループウェアを活用した社内広報に取り組みます。
- ウ 仕事を通じて職員の自己実現をサポートします。

※SDGs 目標No.8（働きがい・成長）に対応

(4) 経営基盤の強化

ア 中長期を見据えた運営

(ア) NEXT VISION 2030の実現に向け、地域ニーズに合わせた事業の検討をします。

(イ) 安定した事業運営ができるよう、業務内容、体制の見直しを行います。

イ 人材の確保と育成および人手不足の解消

(ア) 人と人、人と地域の結びつきを基軸とした人材養成を行います。

(イ) 求職者が夢と希望を実感できる採用活動を行います。

(ウ) 課題発見から解決まで分からないことを積極的に調査研究し、新しい価値を創造する「探求型」の人材育成を行います。

(エ) 多様な人材のライフステージに応じた働き方を確立し、職員が働きがいを実感できる環境を整備します。

(オ) 福祉現場で起きている人と人が織りなす日々のストーリー（物語）を発信する広報活動を行います。

(カ) 業務内容の改善、ICT化等による労働生産性を向上させます。

※SDGs 目標No.3（健康・福祉）とNo.4（教育）No.8（働きがい・成長）とNo.17（パートナーシップ）に対応

(5) 感染症予防および拡大防止対応の強化

- ア 最新情報を収集し、理解することで根拠に基づいた感染症対策を行います。
- イ 各種感染症について、法人として統一した考えを基に対応方法を集約します。

※SDGs 目標No.3（健康・福祉）に対応。

(6) 業務継続計画（BCP）の検証と改善

- ア 社会資源として事業を継続し、継続不能な場合でも早期復旧できる体制の構築に努めます。
- イ 有事の際に速やかに行動ができるよう、訓練と検証を行います。

※SDGs 目標No.11（まちづくり）に対応

※BCP（Business Continuity Plan）

（7）社会福祉連携推進法人としての活動

ア 「社会福祉連携推進法人 きょうと福祉キャリアサポート」として、連携する7法人で人材確保及び職員育成に共同で取り組みます。

※SDGs 目標No.4（教育）とNo.17（パートナーシップ）に対応

（8）地域への貢献

ア これからの丹後地域の発展に寄与する福祉の仕事の意義を次世代に認識してもらうために、積極的に小学校・中学校・高等学校等のキャリア教育に貢献します。

イ 若者のUターンを促進するために、進学等で丹後を離れる高校卒業生が将来、丹後にUターンしてきた際にみねやま福祉社会に就職できる権利を高校卒業時に得ることができる「みらい採用制度（仮称）」を創設します。

ウ オンラインセミナーを通じて、福祉の仕事の専門性や社会的意義を発信することで、より質の高い福祉人材の養成に貢献すると共に、地域の暮らしの困りごとの解決または予防に貢献します。

（9）児童部門

ア 乳児院・児童養護施設

【目標】

・すべての子どもを社会全体で育むことを基本として、子どもと家庭、地域の子育てを支援します。また、子どもたちの権利を守り、最善の利益に配慮した援助を行います。

【事業・行事】

・乳児院はユニットによる小規模グループケア、児童養護施設は地域分散型の小規模グループケアを実施し、子どもたちの安心・安定した生活基盤を築きます。

・「共生社会の創造」に向けて、地域の子育て支援の活動を継続して行うとともに、地域の福祉課題の把握と解決に向けて取り組みます。

＊短期子育て支援事業 ＊産後ケア事業 ＊おひさまひろば

＊児童日中一時支援事業 ＊のびっこクラブ

・丹後こども家庭支援センター「COCO」と共働し、地域の子育て支援に努めます。

【地域貢献】

・おひさまひろば、のびっこクラブを継続して実施します。

・京都式フードバンク事業（子ども食堂等への食材提供事業）に協力します。

イ 保育所・子ども園

【目標】

・こども一人ひとりの心と体の豊かな育ちを支援し、主体性を育む環境作りに努めます。

・保護者が安心して預けることができる場であるよう家庭との信頼関係の構築に努めます。

・職員一人ひとりが主体的に研修を受講し、保育・教育の質の向上にむけ学び続けます。

【事業・行事】

・地域のイベントへの参加や、園行事への招待を積極的に行い、多様な人々との交流を深めます。

・ICT化をさらにすすめ、連絡帳アプリの活用や、おたより・ドキュメンテーションをタイムリーに配信し、保護者との情報共有に努めます。

・保育・教育の基礎を学び続けるために、保育士育成カリキュラムを受講します。

【地域貢献】

- ・地域福祉創生事業（わかプロジェクト）「きらきらスペース」を年10回開催し、内容の充実を図り、地域の人々が繋がり合う居場所づくりに取り組みます。
- ・未就園児を対象とした「子育て支援事業」を充実させ親同士がくつろげるスペースを提供します。また、育児相談日を設け、子育てに関する悩みや相談に対応します。

（10）障がい部門

【目標】

- ・新規事業（就労支援事業・放課後等デイサービス）の事業開始に向けて、環境・体制を整えます。
- ・ご利用者やその家族の生活に安心感を届けるために人材の育成確保に努め、専門性を持った支援、質の高いサービスの提供に努めます。
- ・生産性向上に取り組み、ご利用者の利益に繋がります。

【事業・行事】

- ・放課後等デイサービスの具体的活動、就労継続支援B型事業の高齢者施設と連携した仕事づくりや環境整備、旧五箇保育所跡地活用の公募に向けた準備、さつき園移転新築プロジェクト等を障がい部門事業開発チームで進めていきます。
- ・職員の心の健康作り離職防止のために、部門間連携プロジェクト（『HANASOKKA』など）を活用し、他事業所との交流、話を聞いてもらう機会を広げる取り組みを継続します。
- ・学びの場や研修企画を共有し、障がい部門で共通した学びの場を計画します。
- ・障がい部門主任会議を実施し、人材育成の課題やノウハウを共有し、部門全体で人材育成に取り組みます。
- ・障がい部門連携チームが主体となり、業務改善に向けた情報共有と実施に取り組みます。

【地域貢献】

- ・地域の方と顔が見える関係づくりに努め、頼ってもらえる事業所になるよう取り組みます。（マ・ルート）
- ・「ごちゃまぜ」の実現に向けて、障がいの有無にかかわらず、ともに地域で生活する住民であることを地域住民、利用者が互いに意識しながら楽しめる取り組みを実施します。（もみの木）
- ・「てくてく」を年10回開催し、子育てをされている方たちが、安心して子どもと過ごせる場、保護者同士がつながる場として、ニーズに合わせた活動内容を検討し、提供します。（さつき園）
- ・地域の子どもたちに遊びの場を提供し、子育て世代が一人で悩まず、人とつながる「きのこ広場」を定期開催します。（すずらん）
- ・資源回収や地域の行事に積極的に参加し、地域の方とのつながりを広げます。（すずらん）

（11）高齢部門

ア 全事業共通

【目標】

- ・NEXT VISION 2030の達成に向け、法人内外の研修や、日々の対話を通し各層の人材育成と意識改革を進め、自主的な学びや新しい技術導入に挑戦します。
- ・各種ハラスメントに関する研修を実施し、「No」と言える職場作りを実現します。指導職、管理職が事業所の窓口として対応するよう、研修の学びを職員に周知し、また、他部署へも相談しやすい環境を作ります。
- ・感染症や災害発生時にも、安心して安全な地域福祉拠点となるべく、策定した事業継続計画の訓練を行い、随時見直しを行います。

イ 特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス・訪問介護、居宅介護支援

【目標】

- ・ご家族や地域の方との繋がりを深め、地域の住民として、その人らしい暮らしが継続できるよう支援します。
- ・外国人材（技能実習及び、特定技能）の受け入れを進め、多様な人材が働きやすく、より良い職場となるために業務内容を改善します。

【事業・行事】

- ・アフターコロナをより意識し、面会、地域行事や事業所イベントの推進を行い、より地域と繋がる機会を創出します。

【地域貢献】

- ・地域の行事やサロン、清掃活動等への参加を通し、福祉の役割を探します。
- ・福祉・介護の実習生を積極的に受け入れます。また、外国人材の受け入れから、多様な人間関係の構築を進めます。

ウ グループホーム

【目標】

- ・認知症になっても、できることが続けられ、充実した生活を送ることができるよう支援します。
- ・日常の暮らしから個々の持てる能力を把握します。
- ・介護計画書の更新時等に、ご入居者及びご家族からの要望を伺い計画書に反映します。

【事業・行事】

- ・感染予防をしながら、過去の活動や新しい行事を検討し取り組みます。
- ・生活の中で季節を感じられる行事を行います。
- ・ご家族や地域の方と交流する機会を作ります。

【地域貢献】

- ・認知症あんしん相談窓口の広報を継続し、介護についての相談に応じます。
- ・地域の一員としての役割を果たすため、地域の清掃活動や行事等の手伝いを行います。

エ 小規模多機能型居宅介護事業所

【目標】

- ・ご利用者の状況に応じた柔軟なサービスの提供や介護者・支援者等との連携を深め信頼関係を築くことにより、ご利用者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう支援します。
- ・地域の会議や行事・集まり等に参加し、地域の意見に耳を傾け、地域とのつながりを大切にします。

【事業・行事】

- ・季節に合わせた行事や楽しみの機会を一つでも多く作ることで、日常生活にハリや彩りを添えられるよう努めます。
- ・3事業所（ないきの家、さかいの家、みやづの家）間で職員の交換研修を行い、職員のリフレッシュやスキルアップなどの学び、各事業所のサービス内容や職員処遇の見直しの機会とします。

【地域貢献】

- ・認知症カフェを月1回開催することで、人や地域等とのつながりをゼロにしないよう働きかけます。
- ・認知症あんしん相談窓口をとおして、生活の困りごとや介護の相談を伺い、希望される生活の実現に近づけるよう努めます。
- ・地域の祭りやサロン及び清掃活動などに、地域の一員として参加します。